



第 82 期  
報 告 書

(平成29年3月1日から  
平成30年2月28日まで)

岡谷鋼機株式会社

証券コード 7485

# 株主の皆様へ

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申しあげます。

当社第82期（平成29年3月1日から平成30年2月28日まで）の決算を終了いたしましたので、ここに営業の概況等をご報告申しあげます。

平成30年5月

取締役社長

岡谷 篤一



## 営業の概況

### ◆ 営業の経過及び成果

当連結会計年度における世界経済は、設備投資などを中心に堅調な米国経済に加え、中国および新興国経済も成長が持続し、順調に推移しました。

日本経済は、輸出と設備投資などが活発で、全体として堅調に推移しました。

## 営業の概況

このような環境下にあつて、連結売上高は8,514億円で前期比13.0%の増収となりました。損益につきましては、営業利益は180億16百万円（前期比24.5%増）、経常利益は224億11百万円（前期比24.1%増）となりました。親会社株主に帰属する当期純利益は150億63百万円で、前期比29.7%の増益となりました。

当期において、海外では米国岡谷鋼機会社シリコンバレー事務所を開設し、国内では子会社2社を岡谷サービス&ホームズ株式会社として統合するなど、拠点の強化・効率化に努めました。

また、平成28年6月に虹技株式会社との合併で設立した、自動車用プレス金型鑄物の製造・販売を行う南通虹岡鑄鋼有限公司（中国）が、当期に本格稼働しました。

### ◆ 対処すべき課題

今後の見通しにつきましては、地政学的リスクを含め、世界的な先行き不透明感が懸念されますが、拡大基調にある米国経済や堅調な新興国経済などを背景に、緩やかな拡大が続くものと予想されます。

また、国内では個人消費の拡大や企業の設備投資の継続など、底堅さが期待されます。

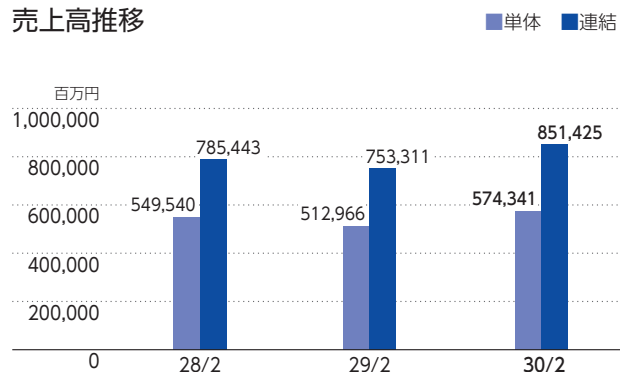
このような経済環境において、当社は国内外のグループ会社共々社会的責任を重視し、世界市場において、ものづくりに貢献する感性豊かな“グローバル最適調達パートナー”を目指し、中期計画の課題の達成に注力してまいります。

また、内部統制の充実・強化、コンプライアンスの徹底、環境に配慮した事業活動の推進など、経営品質の継続的改善にも努めてまいります。

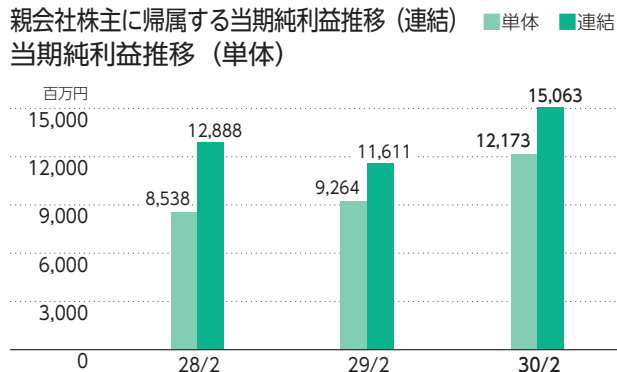
株主の皆様には、今後とも一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

# 財務ハイライト

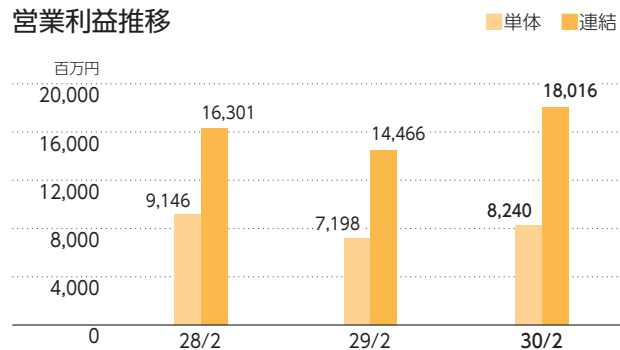
## 売上高推移



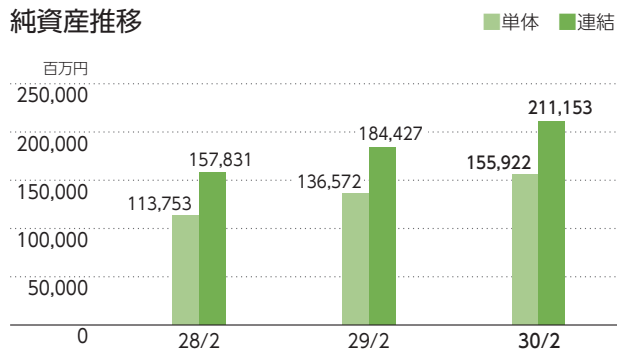
## 親会社株主に帰属する当期純利益推移 (連結) 当期純利益推移 (単体)



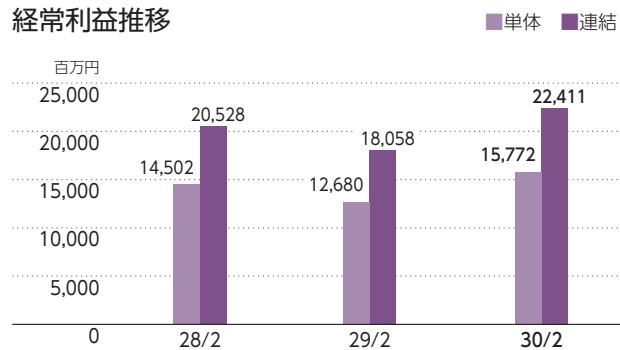
## 営業利益推移



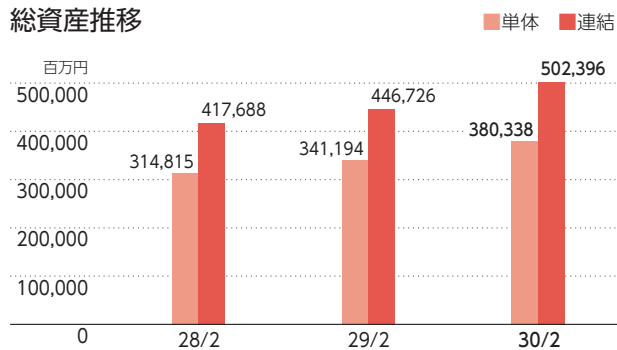
## 純資産推移



## 経常利益推移



## 総資産推移



# トピックス

## 1. Peloton Technology社への出資

米国シリコンバレーに拠点を置く、トラック隊列走行ソリューションを提供するPeloton Technology社に対し、平成29年3月にUSD300,000の出資を行いました。

## 2. 米国岡谷鋼機会社シリコンバレー事務所を開設

米国岡谷鋼機会社は、平成29年4月にシリコンバレー事務所を開設しました。先端技術や社会課題解決型ビジネスモデルが集積するシリコンバレーで、新たなビジネス構築を進めています。

## 3. 名古屋大学オープンイノベーション拠点開設のための寄付

学生ベンチャーの支援を目的に、平成29年6月に名古屋大学への寄付を行いました。その後、10月に名古屋大学オープンイノベーション拠点が開設されました。

## 4. 清掃作業を省力化する自律走行かき集めロボット「TOギャザー」を開発

株式会社竹中工務店と共同で、作業所等での負担軽減策として、自動的に清掃対象物をかき集めるロボット「TOギャザー」を開発しました。



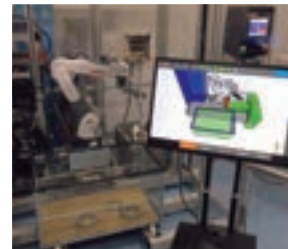
## 5. 資材搬送を省力化するロボット「クローラーTO」を開発

株式会社竹中工務店、トピー工業株式会社と共同で、建設現場作業員の負担軽減策として、スマートフォン等の無線通信指示で資材搬送を行うロボット「クローラーTO」を開発しました。



## 6. ロボットR&Dラボを開設

当社子会社である六合システム電子工業株式会社に、平成29年12月にロボットR&Dラボを開設しました。ものづくり現場における自動化・省人化の解決策として、ロボットの販売を促進します。



## 7. ワンマイルモビリティ プロトタイプ初号機が完成

自動運転技術の中で、一般道におけるワンマイルモビリティに着目し、アイサンテクノロジー株式会社および株式会社ティアフォーと業務提携を行い、完全自動運転EVのプロトタイプ初号機「マイリー (Milee)」が完成しました。今後、実証実験を行います。



## 8. 義援金寄付

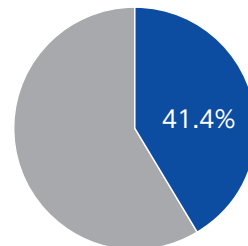
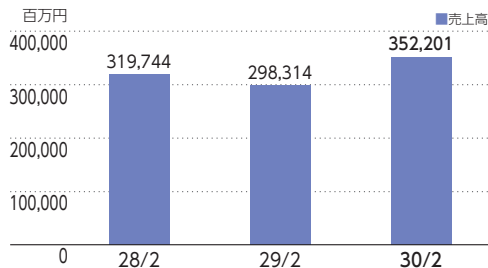
平成29年7月に発生した九州北部豪雨、平成29年9月に発生したメキシコ地震、平成30年2月に発生した台湾東部地震による被災者の方々に対し、グループ会社と共に総額約200万円を義援金として寄付しました。

# セグメント情報

## 鉄 鋼



鉄屑、棒鋼、鋼矢板、H型鋼、鋼板、鋼管、機械構造用炭素鋼、合金鋼、軸受鋼、工具鋼、ステンレス鋼 他



鉄鋼部門は、鋼材価格の回復に加え、土木・建築、製造業向けで数量を伸ばし、好調でした。

特殊鋼部門は、建機・工作機械や自動車の生産が国内外で堅調に推移し、好調でした。

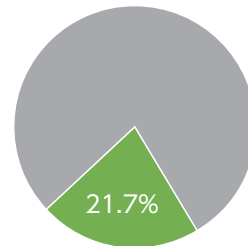
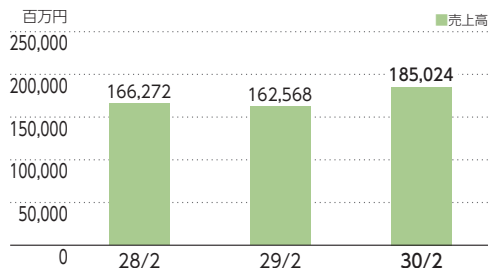
海外は、鋼材価格の回復に加え、北米およびアジア地区における販売を伸ばし、好調でした。

鉄鋼セグメントの売上高は、3,522億円で前期比18.1%の増収となりました。

## 情報・電機



銅・アルミ、レアアース、電子部材、汎用電機品、映像機器、半導体・周辺電子部品、ソフトウェア開発・販売 他



非鉄金属部門は、原材料価格の上昇に加え、家電向け電子部材や自動車関連を中心に国内外で需要が伸び、好調でした。

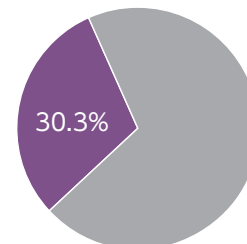
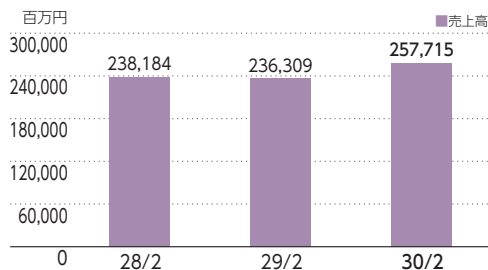
エレクトロニクス部門は、通信機器関連が減少しましたが、FAや自動車関連が増加し、堅調でした。

情報・電機セグメントの売上高は、1,850億円で前期比13.8%の増収となりました。

## 産業資材



工作機械、工具、産業用ロボット、自動車部品、合成樹脂原料、樹脂成形品、環境・リサイクル対応設備、半導体・電子関連設備機器 他



化成品部門は、原材料価格の上昇に加え、自動車関連などで数量を伸ばし、好調でした。

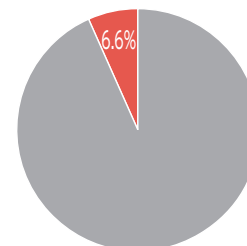
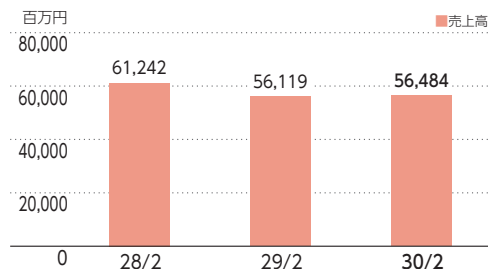
メカトロ部門は、設備の輸出が減少しましたが、国内は航空機関連をはじめ、設備機械や部品・工具が伸び、順調でした。

産業資材セグメントの売上高は、2,577億円で前期比9.1%の増収となりました。

## 生活産業



配管資材、住設機器、住宅用資材、不動産開発、分譲マンション、水産物、畜産物、倉庫業 他



配管建設部門は、配管機材関連の値上げ等の影響により荷動きが増加しましたが、建築物件の請負工事が落ち込み、軟調でした。

食品部門は、水産物の輸入が減少しましたが、鶏肉・鶏肉加工品等の販売が増加し、順調でした。

生活産業セグメントの売上高は、564億円で前期比0.7%の増収となりました。



# 連結財務諸表

連結貸借対照表（要旨）

（単位：百万円）

科目	当 期 (平成30年2月28日現在)	前 期 (平成29年2月28日現在)
<b>資産の部</b>		
流動資産	295,816	258,364
固定資産	206,580	188,361
有形固定資産	38,897	40,215
無形固定資産	1,267	1,292
投資その他の資産	166,415	146,853
資産合計	502,396	446,726
<b>負債の部</b>		
流動負債	239,150	208,105
固定負債	52,092	54,192
負債合計	291,242	262,298
<b>純資産の部</b>		
株主資本	131,144	117,817
資本金	9,128	9,128
資本剰余金	7,798	7,798
利益剰余金	114,674	101,345
自己株式	△ 457	△ 455
その他の包括利益累計額	70,716	57,837
その他有価証券評価差額金	66,088	56,771
繰延ヘッジ損益	△ 180	△ 49
為替換算調整勘定	608	△ 150
退職給付に係る調整累計額	4,199	1,267
非支配株主持分	9,293	8,772
純資産合計	211,153	184,427
負債純資産合計	502,396	446,726

連結損益計算書（要旨）

（単位：百万円）

科目	当 期 (平成29年3月1日から 平成30年2月28日まで)	前 期 (平成28年3月1日から 平成29年2月28日まで)
売上高	851,425	753,311
売上原価	792,215	699,347
売上総利益	59,210	53,964
販売費及び一般管理費	41,193	39,497
営業利益	18,016	14,466
営業外収益	6,501	6,119
営業外費用	2,107	2,527
経常利益	22,411	18,058
特別利益	22	28
特別損失	482	522
税金等調整前当期純利益	21,951	17,564
法人税、住民税及び事業税	6,599	5,749
法人税等調整額	△ 418	△ 274
当期純利益	15,770	12,088
非支配株主に帰属する当期純利益	707	477
親会社株主に帰属する当期純利益	15,063	11,611

連結株主資本等変動計算書（要旨）

（単位：百万円）

当 期 (平成29年3月1日から 平成30年2月28日まで)	株主資本					その他の包括利益累計額						非支配 株主持分	純資産 合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他有価証 券評価差額金	繰延ヘッジ 損益	為替換算 調整勘定	退職給付に係 る調整累計額	その他の包括 利益累計額合計			
平成29年3月1日残高	9,128	7,798	101,345	△ 455	117,817	56,771	△ 49	△ 150	1,267	57,837	8,772	184,427	
当期の変動額													
剰余金の配当			△1,734		△ 1,734					—		△ 1,734	
親会社株主に帰属する当期純利益			15,063		15,063					—		15,063	
自己株式の取得				△ 2	△ 2					—		△ 2	
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動		△ 0			△ 0					—		△ 0	
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					—	9,317	△ 131	759	2,932	12,878	520	13,398	
当期の変動額合計	—	△ 0	13,329	△ 2	13,327	9,317	△ 131	759	2,932	12,878	520	26,725	
平成30年2月28日残高	9,128	7,798	114,674	△ 457	131,144	66,088	△ 180	608	4,199	70,716	9,293	211,153	

（注）記載金額については、百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。



# 単体財務諸表

単体貸借対照表（要旨）

（単位：百万円）

科目	当 期 (平成30年2月28日現在)	前 期 (平成29年2月28日現在)
<b>資産の部</b>		
流動資産	196,947	171,102
固定資産	183,390	170,092
有形固定資産	24,867	25,878
無形固定資産	767	526
投資その他の資産	157,755	143,688
資産合計	380,338	341,194
<b>負債の部</b>		
流動負債	178,159	156,029
固定負債	46,256	48,593
負債合計	224,415	204,622
<b>純資産の部</b>		
株主資本	91,142	80,705
資本金	9,128	9,128
資本剰余金	7,798	7,798
利益剰余金	74,661	64,222
自己株式	△ 445	△ 443
評価・換算差額等	64,779	55,866
その他有価証券評価差額金	64,953	55,912
繰延ヘッジ損益	△ 173	△ 46
純資産合計	155,922	136,572
負債純資産合計	380,338	341,194

単体損益計算書（要旨）

（単位：百万円）

科目	当 期 (平成29年3月1日から 平成30年2月28日まで)	前 期 (平成28年3月1日から 平成29年2月28日まで)
売上高	574,341	512,966
売上原価	547,363	487,410
売上総利益	26,977	25,555
販売費及び一般管理費	18,737	18,357
営業利益	8,240	7,198
営業外収益	8,464	6,760
営業外費用	932	1,278
経常利益	15,772	12,680
特別利益	113	1
特別損失	506	211
税引前当期純利益	15,379	12,470
法人税、住民税及び事業税	3,464	3,399
法人税等調整額	△ 257	△ 193
当期純利益	12,173	9,264

単体株主資本等変動計算書（要旨）

（単位：百万円）

当 期 (平成29年3月1日から 平成30年2月28日まで)	株主資本					評価・換算差額等				純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	評価・換算 差額等合計		
平成29年3月1日残高	9,128	7,798	64,222	△ 443	80,705	55,912	△ 46	55,866	136,572	
当期の変動額										
剰余金の配当			△ 1,734		△ 1,734			—	△ 1,734	
当期純利益			12,173		12,173			—	12,173	
自己株式の取得				△ 2	△ 2			—	△ 2	
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					—	9,041	△ 127	8,913	8,913	
当期の変動額合計	—	—	10,439	△ 2	10,436	9,041	△ 127	8,913	19,350	
平成30年2月28日残高	9,128	7,798	74,661	△ 445	91,142	64,953	△ 173	64,779	155,922	

（注）記載金額については、百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

# 岡谷鋼機のCSR－経営的側面－

当社は、世界市場の中で、ものづくりに貢献する活動を通じて、あらゆるステークホルダーに受け容れられる企業であり続けたいと考えます。地球市民としての自覚を持ち、地球環境に配慮した視点で、『グローバル最適調達パートナー』としての総合力を発揮することにより社会的責任を果たし、持続的発展を目指してまいります。

## ◆ 当社のCSRに対する基本的な考え方

1. 持続可能な成長を目指し、社会的責任を果たすとともに、経営品質の継続的改善、内部統制の充実・強化に努めることにより、企業価値を高める。
2. 株主に対して、最大限の還元を行うべく努力する。
3. 国の内外を問わず人権を尊重し、関係法令、国際ルールおよびその精神を遵守する。
4. 岡谷鋼機グループ環境方針に則り、自主的、積極的に行動する。
5. 社員に対して、公正な処遇を実施し、多様な自己啓発の機会を提供する。
6. 良き地球市民として、地域および社会に対し貢献活動を行う。

※これらの内容は「企業行動憲章」にも記載されております。全文は当社ホームページをご参照ください。( <http://www.okaya.co.jp/> )

## ◆ 当社のCSRのルーツ

1836年（天保7年）秋、6代惣助は笹屋の経営方針および日常の心得として「店則」「家則」などを掲げ、さらに毎朝就業前に全員で唱和する「日誦五則<sup>にっしょうごそく</sup>」を定め、実践しました。これらは、現代におけるCSRの精神に相通じるものであり、笹屋の店員としての業務・営業姿勢を方向づけ、商いの繁栄に寄与したと考えられております。

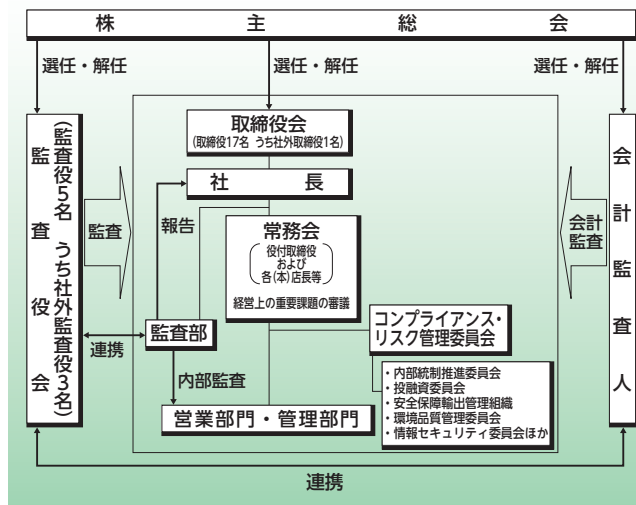
# 岡谷鋼機のCSR－経営的側面－

## ◆ コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、商社としての社会的責任を自覚し、コーポレート・ガバナンス、コンプライアンスおよびリスク管理を経営の重要な課題と位置付けております。社員一人一人の行動が、当社への信頼を生み出し持続的な成長をもたらす重要な要素と認識し、より高い倫理観に根ざした事業活動を行う企業風土の構築を目指しております。

また、課題達成のためのインフラとして内部統制システムを位置付け、継続的に充実・強化を図っております。

【コーポレート・ガバナンス体制図】



## ◆ 経営品質の向上について

「サービス品質」の向上を図りお客様のご要望、ご期待に応えるべく、当社では品質方針を掲げ品質マネジメントシステムを全社システムとして構築し、ISO9001の認証を取得しております。当社以上の規模の商社において、全社的なISO9001の認証取得は他にあまり例がありません。今後とも品質マネジメントシステムの運用を通じて、「サービス品質」および「業務品質」を向上させ、さらには「経営品質」を高めてまいります。

## ◆ コンプライアンスについて

社内にコンプライアンス・リスク管理委員会を設け、コンプライアンスの徹底と実践に努めております。また、社会から信頼される企業であり続けるために法令遵守と企業倫理について具体的に記載した「コンプライアンスマニュアル」を作成し、全社員に配布するとともに、各種講習会を開催し、法令遵守に努めております。

# 岡谷鋼機のCSR—社会的側面—

## 〔社員とともに〕

### ◆ 女性の活躍推進への取組

平成29年1月、名古屋市より、「子育て支援企業」（子育てにやさしい活動に取り組んでいる企業）、および「女性の活躍推進企業」（女性の活躍推進に取り組んでいる企業）の認定を受けております。

### ◆ 海外研修制度

若手社員の海外研修として、3ヶ月間海外の語学学校で勉強を行う「海外語学研修」を取り入れております。

### ◆ 禅寺研修

心の教育の一環として、新入社員を対象に、禅寺研修を行いました。僧侶からの法話、座禅、写経などを通して、自らを客観的に見つめ直し、感謝と我慢の心を学びました。

## 〔地域とともに〕

### ◆ 三重県紀宝町でのボランティア

浅里地区において、田植えや稲刈りなどのボランティア活動を平成25年以降継続して行っております。過疎化、高齢化が進む同地区と「農山村活性化の取組に関する協定書」を締結し、継続的な支援活動や交流を行っております。



紀宝町でのボランティア活動

### ◆ 日本語スピーチコンテストを開催

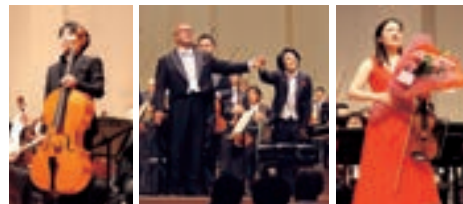
現地法人5社（広州・香港・北京・上海・台湾）は、中国の大学生を対象として、今回で4回目となる日本語スピーチコンテストを、平成29年10月に広州にある暨南大学で開催し、22名が出場しました。



スピーチコンテスト

### ◆ チャリティーコンサート開催

社会貢献活動の一環として、日本特殊陶業市民会館において「OKAYA CHARITY CONCERT 2017 ~感謝の夕べ~」を開催しました。多くの皆様にご賛同いただき、チケット売上金を社会福祉法人愛知県共同募金会に募金しました。



チャリティーコンサート

# 岡谷鋼機のCSR—環境的側面—

当社は、地球環境と事業活動との密接なかかわりをよく認識のうえ、地球環境の保全と経済社会の持続的な発展を常に念頭に置き、環境への取組みを進めております。

## ◆ 環境ISO14001認証の取得

当社は平成11年9月に環境宣言を行い、それ以降、岡谷鋼機グループ環境方針に沿って環境マネジメントシステムを構築し、環境保全活動に取り組んでおります。平成12年6月に審査登録機関LRQA（ロイド・レジスター社）の審査に合格し、環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001の認証を取得しました。以降、引続きグループ会社を含め認証サイトを拡大しております。

【ISO14001グループ認証書】



## ◆ 継続的改善に向けて

当社では、環境品質管理規程に則り、PDCAサイクルによる活動を実施し継続的改善に取り組んでおります。

これらの活動状況は、内部監査員による監査で年一回確認し、さらに、外部審査機関による審査で半年ごとに確認しています。また、この結果は、経営層に報告し、見直しを行います。

## 利益配分に関する基本方針および株主優待について

### 1. 配当政策

当社グループは、株主に対する利益還元を企業経営の重要政策の一つと考えており、競争力を維持・強化して株主資本の充実に努めつつ、配当を行うことを基本方針としております。

### 2. 株主優待

当期（平成30年2月期）株主優待として、期末保有株式数100株以上の株主様に、《山の幻 愛知県産米ミネアサヒ5kg》をお贈りいたします。

また、第2四半期末保有株式数200株以上の株主様に、《山の幻 愛知県産米ミネアサヒ5kg》をお贈りいたします。

なお、長期保有株主様向け優待として、半期毎（2月末および8月末）の最終株主名簿に同一株主番号で連続6回以上記載されていることを条件とし、毎年2月末日現在における最終株主名簿に記載された保有株式数100株以上の株主様に対して、『図書カード』2,000円相当を、および毎年8月末日現在における最終株主名簿に記載された保有株式数100株以上の株主様に対して、『図書カード』1,000円相当をお贈りいたします。







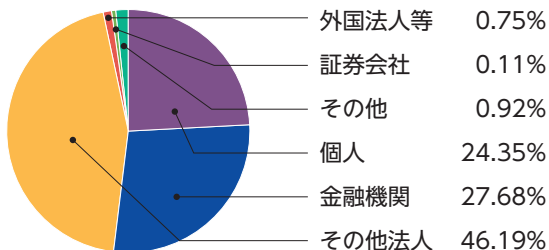
# 株式の状況 (平成30年2月28日現在)

## 株式の状況

株式数	
発行可能株式総数	35,571,200 株
発行済株式の総数	9,720,000 株
株主数	3,492 名

## 株式分布状況

### 所有者別割合



## 大株主の状況

株主名	持株数 千株	持株比率 %
岡谷不動産株式会社	1,214	12.60
岡谷篤一	482	5.00
株式会社三菱東京UFJ銀行	462	4.80
新日鐵住金株式会社	424	4.40
三井住友信託銀行株式会社	402	4.17
株式会社りそな銀行	265	2.75
損害保険ジャパン日本興亜株式会社	251	2.60
岡谷鋼機社員持株会	189	1.96
オークマ株式会社	163	1.69
公益財団法人真照会	138	1.44

- (注) 1. 持株比率は自己株式(86,172株)を控除して計算しております。  
 2. 株式会社三菱東京UFJ銀行は、平成30年4月1日に株式会社三菱UFJ銀行となりました。  
 3. 公益財団法人真照会は、将来社会に貢献し得る人材を育成し、併せて学術・技芸の振興を図るために必要な奨学援助をなすことを目的として、大正6年に創設されました。

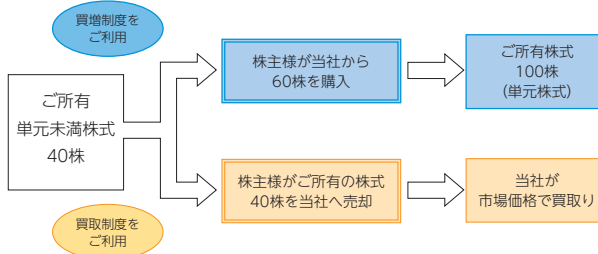
# 株式に関するお知らせ

## 単元未満株式の買取・買増請求について

当社の株式は1単元が100株となっており、単元未満株式(1~99株)については市場での売買はできませんが、当社に対して買取請求(売却)、または100株(1単元)となるよう買増請求(購入)をすることができます。お手続きの方法および用紙のご請求は、裏面記載の連絡先にお申し出ください。

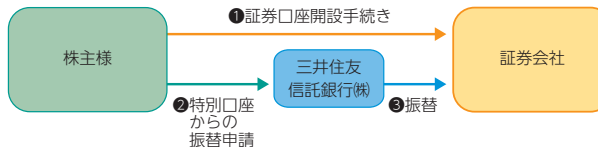
### 【単元未満株式買増・買取制度例】

○単元未満株式40株をご所有の株主様の場合



## 特別口座から証券会社の口座への振替申請について

特別口座\*に記録されている株式については、特別口座のままでは売買できません(単元未満株式を除く)。様々なお手続きを円滑に行うためにも証券会社の口座への振替申請をお勧めします。



※特別口座  
株券電子化前にほふり(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった場合に、当該株式が記録される口座です。



## 株主メモ

事業年度 毎年3月1日から翌年2月末日まで  
 定時株主総会 5月  
 配当金支払株主確定日 期末配当 2月末日  
 中間配当 8月31日  
 公告の方法 電子公告  
 ただし、電子公告によることができない  
 やむを得ない事由が生じたときは、日本  
 経済新聞に掲載いたします。

電子公告掲載ホームページアドレス

<http://www.okaya.co.jp/ir/pn/>

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
 三井住友信託銀行株式会社  
 連絡先 〒168-0063  
 東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
 電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)  
 取次事務は三井住友信託銀行株式会社の  
 全国本支店で行っております。

## ホームページのご案内

岡谷鋼機のホームページでは、決算短信  
 等の詳しい財務データや各種IR情報を掲載  
 しています。  
 是非一度ご覧ください。



IR情報はここから  
 お入りください。

・岡谷鋼機ホームページアドレス  
<http://www.okaya.co.jp/>

## 株式に関するお手続きについて

株式に関するお手続きは、①証券会社の口座に記録されている場合と、②特別口座に記録されている場合で、下記のとおり異なりますので、該当の窓口にお問い合わせください。

証券会社の口座に記録された株式	
お手続き、ご照会の内容	お問い合わせ先
<ul style="list-style-type: none"> <li>単元未満株式の買取・買増請求</li> <li>届出住所・姓名などのご変更</li> <li>配当金の受領方法・振込先のご変更</li> </ul>	口座を開設されている 証券会社
<ul style="list-style-type: none"> <li>郵送物の発送と返戻に関するご照会</li> <li>支払期間経過後の配当金に関するご照会</li> <li>株式事務に関する一般的なお問い合わせ</li> </ul>	三井住友信託銀行 株式会社証券代行部

特別口座に記録された株式	
お手続き、ご照会の内容	お問い合わせ先
<ul style="list-style-type: none"> <li>単元未満株式の買取・買増請求</li> <li>特別口座から証券口座への振替請求</li> <li>届出住所・姓名などのご変更</li> <li>配当金の受領方法・振込先のご変更</li> </ul>	三井住友信託銀行 株式会社証券代行部
<ul style="list-style-type: none"> <li>郵送物の発送と返戻に関するご照会</li> <li>支払期間経過後の配当金に関するご照会</li> <li>株式事務に関する一般的なお問い合わせ</li> </ul>	

## 「配当金計算書」について

配当金支払いの際送付している「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねて  
 おります。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。ただし、株式数比例配分  
 方式をご選択いただいている株主様につきましては、源泉徴収税額の計算は証券会社にて行われます。確定申告  
 を行う際の添付資料につきましては、お取引の証券会社にご確認をお願いします。

なお、配当金領収証にて配当金をお受取の株主様につきましても、配当金支払いの都度「配当金計算書」を同封  
 させていただきます。

確定申告をなされる株主様は、大切に保管ください。